

## 令和5年度 釜石市観光審議会 開催結果

1 開催日時 令和6年5月24日(金) 15時から16時45分

2 開催場所 釜石情報交流センター 多目的集会室(釜石 PIT)

### 3 出席者

①出席委員：谷澤栄一副会長、岩崎昭子委員、高橋恒平委員、河東英宜委員、  
和田利男委員、佐々木雄司委員、遠藤ゆりえ委員、多田陸奥夫委員（8名）  
（欠席：新里進会長、藤井恵美委員、瀬戸元委員、宮崎達也委員、濱名洋子委員）

② 顧問：立教大学観光学部教授 東徹

③ 釜石市：市長 小野共

産業振興部長 小山田俊一

商工観光課長 菊池拓朗、課長補佐 前川靖展、課付係長 中田深雪

### 4 会議録（要旨）

#### （1）新委員委嘱状交付

新委員の瀬戸委員に委嘱状を交付する予定であったが、本人欠席のため、割愛。

#### （2）開会

菊池課長が釜石市観光審議会条例第7条第2項の規定により定数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言。

#### （3）市長挨拶

ご紹介をいただきました市長の小野でございます。

まずもって今日は顧問の東先生をはじめ、委員の皆様におかれましてはお忙しいところ、わざわざお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

当市におきましては、平成29年度に観光振興ビジョンを策定いたしまして、現在の実施計画となりますアクションプランに基づきまして、各事業をご存じの通り展開しております。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されましたことから、4年ぶりに鶴住居復興スタジアムにおきまして、釜石よいさを開催いたすことができました。ラグビー合宿誘致、その他にもワーケーション研修受け入れなどの取り組みによりまして、誘客と賑わいの創出を今まで図ってまいりました。

その結果、観光客数であります。令和4年度の約61万5千人に対しまして、令和5年度は約61万8千人と3千人ほど増加いたしております。宿泊者数におきましては、令和4年度の約14万8千人に対しまして、令和5年度は約15万1千人。これも増加しております。

当市はご存じの通りでありますように、震災を経験し、コロナ禍を経て、なお物価高騰に見舞われるなど、依然厳しい状況にあるところでありますが、当市の推進しております、持続可能な観光地域づくりは、国際認証機関のグリーンDESTINATIONSにおきまして、高く評価されております。世界の持続可能な観光地100選に、6年連続で選出されておりますとか、国内初となりますゴールド賞を受賞しているなど、国内外か

ら大変注目されておるところであります。

本日は、令和5年度事業実施状況のほか、株式会社かまいし DMC 様より、観光入込調査結果、そしてグリーン・デスティネーションズ・アワードゴールド賞の受賞などにつきまして、ご報告をいただくこととなっております。

皆様から本日は忌憚のないご意見等を伺いたいと思っておりますので、どうか今日はよろしくお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。

今日はどうかよろしくお願いいたします。

#### (4) 顧問及び委員紹介

菊池課長より顧問及び出席委員を紹介。

【顧問 立教大学観光学部 東徹教授】

【委員 谷澤副会長、岩崎委員、高橋委員、河東委員、和田委員、佐々木委員、遠藤委員、多田委員】

#### (5) 議事

会長欠席により、観光審議会条例第5条第3項の規定により、副会長が職務を代理することから、谷澤副会長による議事進行。

【谷澤副会長】

・議事に入ります。議題(1)及び(2)について、関連しますので一括して事務局説明をお願いします。

【中田課付係長】～資料に基づき一括して説明～

【谷澤副会長】

・ありがとうございます。私から KPI の誇りを持つ市民の割合と、人を呼び込もうとする市民の割合の調査方法について確認したいと思います。

【河東委員】

・調査は18歳から65歳までの任意の市民1,400人を対象に調査票を送付し、提出された約400人分の回答から項目毎に割合を算出。

【谷澤副会長】

・ありがとうございます。東先生にコメントいただいた後、皆様からご意見をいただきたいと思えます。

【東顧問】

・誇りを持つ市民の割合が14%であることについて、市長どう思われますか。

【小野市長】

・他の自治体との比較も必要と思うが、14.7%は単純に低いとがっかりした。

【東顧問】

・この項目を入れてくれと言ったのは私。なぜかと言うと、観光はまちづくりの手段なので、住民が納得できないような、あるいは住民が誇りを持っていないような観光のあり方でどうするんだということ。データが良くない点は、是非、市に改善いただきたい。

・人を呼び込もうとする割合が比較的低いということは、観光には関心がある。ただ、観光が市民の誇りに結び付いていない。ここをアピールしていく必要があると思う。観

光は住民が住みやすく、住民が誇りを持てる地域づくりのための手段なのだということ  
をより強調しなければならない。

- ・ランクアップしたアワード受賞は「認証を受けて良かった」だけではなく、例えば視察  
に来た人達が、やっぱり釜石はすごいなと思うエビデンスがあるのかということ。これ  
こそがまさに視察観光に対する満足度。グリーンデスティネーションはそんな目立つこ  
とではない。「さすが、これやってるもんな」という地道な努力の問題。漁船クルーズは  
環境に負荷のかからない、新しい観光の魅力を作っており、ポイントが高いと思う。
- ・先を見据えると、グリーンデスティネーションやサステイナブルツーリズムというのは、  
限界を知るということ。どこまで増やすかではなくて、将来的に釜石の魅力を伝えるに  
はここまでの人数だと。ラーメン屋にたとえ行列ができて不満になろうとも、釜石が受  
け止めきれるのはここまでなのだ。漁船クルーズだって断って結構だと思う。
- ・限度を知り、ここまでしか釜石は受けきれませんということを日本に先駆けてやるべき。  
これ以上来たら困って言っているのは日本中でここだけです。
- ・地域ブランド構築は、観光と物産がリンクするということ。釜石に来た方が帰った後も  
「釜石のウニ食べたい」、「浜千鳥飲みたい」とか取り寄せたいと思う感覚が生まれる。  
地域ブランドというのは地名+生産物の名前。三陸ブランドの中で釜石が突出して「さ  
すが釜石」と言わせるには、観光に来た人に対し、生産環境や生産者の想いを見せずし  
て地域ブランド構築と言えない。そこがこれからの取り組みの大きな問題。釜石のらし  
さを見せつけることで、釜石何とかが、他の地域と違うものに見えてこない、或いは  
それを承知することの幸福感が見えてこない、地域ブランドとは言えない。1つの大  
きな指針として、観光を通じて釜石ブランドを作る戦略を取ったらどうかと感じている。

#### 【谷澤副会長】

- ・今の先生のお話も含めて皆様の方からご意見を伺いたいと思います。アクションプラン  
の事業別進捗表への関わり、経過や今後の展開について、高橋委員、いかがですか。

#### 【高橋委員】

- ・アクションプランの釜石線沿線等活性化推進事業は弊社が関わっているところ。S L 銀  
河の運行終了後、新しい観光列車ひなびが運行している。S L 銀河のインパクトは強く、  
以前訪れた方が度々釜石に来ており、GW のひなびPR イベントでは、ひなび乗車のため  
に首都圏、京都や福岡からお越しの方も多かった。我々は、鉄道を観光に繋げるとい  
うことや、いかにリピーターを作るかについて今後も取り組んでいきたいと考えている。

#### 【谷澤副会長】

- ・様々なコラボレーション等もあると思いますが、ひなびの今後の展開はいかがですか。

#### 【高橋委員】

- ・沿線活性化広域エリア、三陸鉄道様との連携のほか、ひなびは八戸線や下北半島でも運  
行している。日頃より、いかに周遊していただくかについて、市商工観光課、三陸鉄道  
の皆様などと連携して取り組んでいる。引き続き知恵を出しながらやっていきたい。

【谷澤副会長】

- ・ありがとうございます。それでは他に積極的に何か自分の関わった事業、アクションプランの関係等で、お話があればいただきたい。和田様お願いします。

【和田委員】

- ・橋野鉄鉱山周辺事業の様々な取り組みに感謝申し上げつつ、来年橋野鉄鉱山 10 周年ということで地元としての賑やかさを考えている。
- ・その中で何点かお願いしたい。1つは、インフォメーションセンターにおいて、整備、調査を行い、せっかく発掘した物の展示期間は少し長くした方がよい。橋野鉄鉱山が近代化に残した役割を伝える施設の割に、展示物がやや少ないと感じている。さらに橋野鉄鉱山には公開・非公開エリアがある中で、全体感を示して分かりやすく説明する意味で、ジオラマあったら良いという声がある。
- ・もう1点、市内の宿泊施設からは、1日でも長く開いていることが、お客様を呼ぶためになるという声をいただく中、冬季間閉館する施設であることから、せめて12月いっぱい、あるいは3月上旬には開けることをご検討いただきたい。
- ・3つ目に、ガイドをする際に良くお聞きをするのは、橋野鉄鉱山に来る際、笛吹峠が通りづらいということ。現に青ノ木区間は工事が入り片側交互通行、笛吹峠も日中全面通行止めの状況から、岩手県に対して要望を行っている。そういったことも将来の課題として、橋野鉄鉱山に関する担当課にお伝えいただきたい。

【谷澤副会長】

- ・はい、ありがとうございます。佐々木委員、お願いします。

【佐々木委員】

- ・いろんな角度から何点かお話させていただきたい。
- ・まず、「鉄と魚とラグビーのまち」を釜石の観光のキャッチフレーズとしているが、これが良いかどうかを考える時期と思っている。もしこれを続けるならば、鉄に関しては、釜石製鉄所の見学も1つの観光として考えられると思う。学生に対し鉄の歴史館や橋野鉄鉱山を案内して古い歴史の話をして、実感が湧かないことに加え、現在、鉄をどう作っているか、釜石製鉄所は何を作っているのか知らない。だからそういう過去と現在を繋いで鉄をもう少しPRするために、実際に生産している鉄の現場を観光客に見せるのも1つ。
- ・それから鉄に関するお土産の話。先程先生が仰ったように、鉄のまちとして、何か鉄のお土産があるかということ。鉄瓶とかじゃなくて、手軽で、おしゃれな物があると良い。
- ・ラグビーの合宿誘致に関し、私は根浜のレストハウスで働き、グラウンド管理の大変さを感じている。種を蒔いたり薬肥をすることで、だいぶ状態は良くなっているが、今後、根浜のグラウンドをラグビー合宿等で活用するのであれば、少ない人数で管理しようとするとは非常に厳しい。グラウンドをある程度のレベルで維持するには、スプリンクラーの設置などハード対策も必要と思う。
- ・それからもう1点、根浜の海開きの関係。震災後に国や県の力をいただいて根浜の砂浜を再生し、海水浴ができるようになりありがたく思っている。海開きイベントに長年携

わる中、もう少し若い人たちが企画段階から入ってくれた方が良い。そうすれば、若者が地元に対する愛着を持ち、定着が期待できる。だから中学・高校生など若い内から地元のイベントを作る機会への参加により、いろんな経験させて、観光分野、ひいてはそれが釜石地域の活性化にもなるような取り組みにつなげたい。ぜひ市の方もそういった視点をもっていただけたらありがたい。

**【谷澤副会長】**

・ありがとうございます。多田さんどうぞ。

**【多田委員】**

・海の方は非常に毎年喜ばれているので、私は山の方をもう少し充実させた方が良く思う。五葉山へ行く赤坂峠や檜ノ木平峠のコースの整備に加え、山間部で栽培されているキノコ類の収穫や料理体験を組み合わせれば、他所からの人が来るのではと思う。地域おこしや都会からの永住に関する番組が放映されており、そういう体験とか暮らしを希望する方がいると思うし、農業経験者を先生にする体験メニューを作ったらと感じた。

**【谷澤副会長】**

・ありがとうございます。

・ここで次の議題（３）、（４）、（５）に関して河東様ご説明をお願いいたします。

**【河東委員】～資料に沿って説明～**

**【谷澤副会長】**

・河東様、ありがとうございました。それでは先程と同じように、東先生からコメントを頂戴できればと思います。

**【東顧問】**

・先程のグリーンデスティネーションズについての話は、認証を得るのが目的ではなくて、何をやる観光地が認められるんだろう。という逆算的な発想。過去の栄光ではなくて、今まさに動いて現在進行形で取り組んでいることが評価されている。恐らく、これでまた視察が増えるのだろうと思う。

・「地域資源リスト」は、観光資源ではなく地域資源であることに意味がある。なぜ観光資源と書かないかという、観光資源だけの視点で物を見ないということ。地域の資源はむしろ市民が誇りの対象であるかもしれない。それが市民の誇りなら、それが地域の宝。サステナビリティというのは、いわゆる富裕層を沢山呼んだり、山奥に豪華なリゾートを作るような派手な観光を指すものではない。だから、そういう意味では釜石の地味さを活かす取り組みがすごく大事だと思う。今の観光の新しい動きとして、普通の民家に泊めてもらい、例えば寒い時期に柿を採り、皮をむいて、縁側に吊るす地元の生活そのものを体験するような民泊が増えている。要するに、地元の人が面白い訳ないだろうと思っていることが、他所から来た人には貴重な資源だったりする。それがわたしの言葉で言うと、「生活のにおいを感じる観光」。これが１つ、商品化できる可能性を持っているのではないか。ただし、これはそんなに儲からないし、何千人増えるというレベルではない。だから、地味な観光の積み重ねが大事で、これがたぶんグリーンデスティネーションズの栄冠に輝いた釜石が考えていることだと思う。SDGs とか、地域社会が持

続するための観光のあり方であるからには地味な方が良い。そういう意味で言うと、地域資源の地味なものをもう少し見直しても良いかもしれない。

- ・いわゆる着地型と言われる地元企画型商品をどれだけ生み出せるかは、地域の人がどれだけ関わるかである。様々なプログラムを考えてきたと思うが、釜石のラーニングは良い商品。ひとつのメリットは企業の人と結びつきやすいこと。もしかしたら帰ってから新しい企画が生まれるかもしれない。もう1つ大事なことは、地元の人が先生になれること。地元の人が主役になれて、先生として教えることで自分達の足元を見直すことに繋がるし、自分たちの誇りにも繋がる。ラーニングという学びの観光を続けていくことで、市民の皆さんの誇りが高まることに結び付けばすごく良い。防災教育もそう。負の遺産であるはずの震災の経験を防災教育に活かすことは、実際には自分たちへの擦り込み直しだと思う。チリ地震2年後に生まれた私は、子供の頃から「いつ来るか分からないぞ」と脅されながら育った。だけどいつの間にか風化した。けどこうやって体験した人だけじゃなく、体験していない、記憶のない子供達にも伝えるし、先生になっていくことが「地味な観光」としては、良いプログラムとして商品化がなされていると思う。
- ・観光教育については、多分そんなに観光を教えられる人がいないので、先生方を教育する必要があると思う。地元を知らないだけじゃなくて、観光の在り方そのものを知らない。私は観光学部にいますが、教員になる人はほとんどいない。そういう意味では観光教育の人材が不足している。教える側の不足はこれから問題なるはず。観光は地域づくりの1つの手段に過ぎないということを教えていただきたい。観光が目的でゴールではない。観光されることで地元の人が幸せにならなければ意味がない。そのために君達に観光の担い手になってほしいというメッセージを伝えていただきたい。

#### 【河東委員】

- ・先生がおっしゃるように、すごい人数が一気に来たら受け入れられない。いかに適切な量を受け入れるかがポイントで、今の企業さんの受入規模がちょうど良い。今週もある企業17名を受け入れたのですが、夜は4次会くらいまであり、相当な経済効果がある。

#### 【東顧問】

- ・いろいろ活用すべき資源がたくさんあり、それが徐々に商品化され、しかもそれは全部地味な取り組みだっていうところが素晴らしい。
- ・もう1つ。JRさんと取り組むマースの話。三陸沿岸でもマースプログラムを作って進めると、二次交通の弱点が克服できるかなと感じる。将来に向けて研究してほしい。

#### 【谷澤副委員長】

- ・ありがとうございます。まだご意見いただいてない方からまずご意見をいただきたい。遠藤様、何か全体見て、今のこととかも含めてお願いいたします。

#### 【遠藤委員】

- ・コロナ禍以降、順調に観光客も戻り、KPIも伸びてきて良かった。特に質問はないため、個人的な活動をお話ししたい。畑を借りて、ワイナリーを作ろうというプロジェクトを始めた。ぶどうが育つまで時間がかかるので、今はブルーベリーを植えて、今年の夏にはもう収穫ができる。ジャムやジュースを作ったり、収穫体験をしてもらいながら、

鶴住居復興スタジアムとシーウェイブスとラグビーを盛り上げていけたらということで、ホームページやインスタで情報発信している。

- ・個人的にもう1つ。外国人がいらっしやっただ際に、案内を頼まれて対応しているが、これがもう少し増えていけば良いと思っている。DMCさんにもぜひ協力していきたい。
- ・通訳案内士という国家資格がある。インターネットで調べたら、釜石にはその資格保有者がいないということだったので、2、3年以内に挑戦したいと考えている。

#### 【谷澤副会長】

- ・はい、ありがとうございます。では、宝来館の女将、岩崎さんお願いします。

#### 【岩崎委員】

- ・まず、今年の春はJRに乗り角館から八戸を回って桜を見た後、釜石にお越しになる方が多く、桜の時期に南下してくるお客様に釜石をアピールすることが大事と感じた。
- ・それから、DMCさんが釜石商工高校と行っている観光教育は私も望んでいたこと。観光では三陸の食が目玉なのに、うまく活かし切れてないと感じていた。地域活性化に向けて地域事業者と課題の共有や連携が重要と感じていたので、観光教育の流れの中に、その食の部分も入れてほしい。このような機会が釜石にあって、みんなが当事者になり、釜石の愛着を育てるっていうのはすごくいい結論になるだろうと、今後に期待したい。
- ・イギリスで「みちのく潮風トレイル」が日本で行くべき14ヵ所に選ばれた。実はトレイルを通る外国の皆様には、毎日泊まっていたでいる。生活のにおいを感じながら沿岸を歩くトレイルコースは、人数的には少なくとも、ファンを作る大事な観光の要素。今年根浜地区としては、トレイルを一生懸命ご案内したい。
- ・釜石東中学校は、長年根浜海岸の松林や砂浜の清掃活動をしており、令和5年度に環境部門で岩手県知事賞を受賞した。学校の地道な協力により、根浜海岸を守っているものの、年間10万円程の生徒のバス代を捻出できないため、DMCさんや私達がどうにかバス代を確保している。持続可能な環境を守っていくための活動に必要な経費について、皆様のご協力を得て、一緒に考えられるようになれば有難い。
- ・先生の話聞いて、地味な釜石の観光が生み出す見えない経済効果の金額を数字化することで、釜石の価値をもっと知ってほしいと思う。鉄の歴史とラグビーと魚の3つを変えてではなくて、これらの魅力や、それを大事にしてきた釜石を将来に繋ぎ、子供たちにも希望と誇りを持たせることができると思う。私は釜石大好きで、今までより良い釜石になっていくと思うので、今後も自信を持って取り組んでいきたい。

#### 【谷澤副会長】

- ・皆さん本当に熱い思いで釜石のこと、観光のことや自分のこととお話しいただき、ありがとうございます。それぞれが繋がれば、釜石の観光に広がりが出るものと思います。
- ・ここで最後に市長さんにお話をいただきたいと思います。市長お願いします。

#### 【小野市長】

今日は本当にお忙しいところありがとうございました。今日、様々な観光の形が出ました。河東さんが釜石に入ってきてくれまして、様々な釜石の観光の形というのを変えてくれたんだろうと思っています。

体験型或いは滞在型の観光と、先生からお話もありましたけど、暮らしのにおいがする観光といったようなことなんでしょうと思います。我々が今まで何とも思ってなかったようなことが、実は釜石の外側或いは県外の方から見ると、もっと価値があるんだと、そう気づかせてくれたということなんでしょうと思います。ウニ剥きだとか、わかめの収穫体験とか、それは我々としては何とも思っていないようなことが、外から来た方々にしてみれば、価値があるんだよと。朝の気温の低さだとか、海のおいだとか、わかめの手触りだとか、そういうものが本当に釜石に来た思い出になっているんだと。そしてそれを教えてくれる漁師の人たち、市民の人たちにとって、プライドになってくるんだろうと、誇りになってくるんだろうとっております。それがいずれ釜石の人たちの、今日アンケートにありました14.7%というスタートの数字が、だんだん増えていくことになるんだろうとっております。

あと今日、先ほど雄治さんの方から話がありました、鉄と魚とラグビーの話であります。私も実は同じことを思っていて、魚はおいしい魚がいっぱい獲れて、おいしい魚が食べられればいい、すごく釜石の価値が上がることですし。ラグビーも地元の人たちがいっぱい選手の中において、応援して、強くなればいい。すごくシンプルなんだと思うんですよ。だけど鉄だけは、何となくうまく、昔はこうだったんだと、釜石の鉄の連続出鉄がこう始まったんだということを、それを学ぶということが、鉄の様々な勉強会の題材になってまして、雄治さんも仰いましたように、鉄をどう今の釜石のまちづくりに活かしていくのかというのはなかなか難しく、そこがすごく今、魚とラグビーに比較してうまくいってないんじゃないかなってというのは、何となく思っていました。それが最近、釜石鉱山事務所の中でVRが始まったり、トロッコの体験みたいなのが始まったりして、何となくそれが、うまく回り出してくる兆しが見えてきてるのかなという気がしてました。それはやっぱり、釜石の今の観光と一緒にやろうと思ってる人たちの実が結び始まってきてるのかなという気がしております。

いずれにいたしましても、行政だけでは何ともならない事業でありますので、釜石の魅力発掘のため、そして釜石の市民たちの地元に対する誇りとかプライドを上げるために、皆さんと協力してやっていきたいと思っておるものですが、皆様にも今後の協力をよろしく願いいたしまして、御礼とさせていただきます。今日本当にありがとうございました。

#### 【谷澤副会長】

- ・今、市長が仰ったように、やはり地元企業の普段見れないところを見せることを観光に繋げていただき、尚且つ、企業イメージを上げてもらうような関係性となるよう、行政の方もぜひどんどんアプローチしていただきたいというのが私の感想です。
- ・本当に長時間ありがとうございました。ここで議長の方を終わらせていただきます。

#### 【菊池課長】

- ・今日お集まりの皆様にもいろいろ貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度釜石市観光審議会を終了いたします。本日はお忙しいところありがとうございました。